



現在の金浜海岸の様子

かのや Kanoyaの 取扱説明書

鹿屋のギモンにお答えする



戦後80年シリーズ④ 進駐軍上陸地となった海岸

今年はこちらようど戦後80年の節目を迎えます。本市と戦争の深い関わりがあったことを示す5つの特徴を全4回のシリーズでお伝えします。

戦後、進駐軍が上陸した地

終戦後、進駐軍は日本の重要な軍事施設を接収するため軍隊を送り、神奈川県厚木などとともに鹿屋に上陸することを目標に掲げていました。そして戦後間もない昭和20年9月4日、高須地区の金浜海岸に進駐軍が約2,500人上陸しました。

本来は高須海岸から上陸する予定だった進駐軍でしたが、高須海岸は遠浅で船を寄せにくい地形になっているため、近くの金浜海岸からの上陸を選びました。船が到着するとブルドーザーなどの重機が次々と船から降りてきて猛スピードで道路の舗装を進めていき、その様子を恐る恐る見ていた人たちはその迫力と技術



上陸の前に歓迎レセプションをしていた!?

最近では金浜海岸に上陸する前に、実は進駐軍の偵察隊が高須に来ており、当時の国・県の要人や鹿屋市長が集まって歓迎のレセプションを行っていたことが住民の証言や写真から判明しました。



力に大変驚いたといえます。進駐軍が上陸すると聞いた人たちの中には高須を離れて疎開した人もいました。進駐軍とのトラブルはあまり無く、関係は良好だったそうです。

現在、金浜海岸エリアには「進駐軍上陸の碑」と「高須トーチカ」の2か所に「鹿屋市戦争遺跡VR・金浜海岸編」が設置されています。進駐軍の上陸を監視するために作られた高須トーチカをテーマにしたこの動画は、当時の様子を臨場感のあるVRで見ることが出来ます。

この連載企画は、戦争という大きな混乱の中で鹿屋がどのような歴史を辿ってきたかをまとめてきました。世界に目を向けると、戦争は未だ終わりが見えません。戦争の歴史を知り、しっかりと次代へと教訓を語り継ぐことこそが、今の時代においても求められていることなのではないでしょうか。

8 9 3 - 8 5 0 1

POST CARD

皆さんからの メッセージを募集

広報誌への感想のほか、市へのご意見など多くの情報を、郵送又は二次元コードのご意見フォームからお寄せください。

ご意見の中から抽選で特産品等をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております！ ※掲載時に原稿の一部を手直します場合もあります。



▲ご意見フォーム

85円切手をお貼りください

鹿屋市共栄町20-1
鹿屋市 政策推進課
広報KANOKYA「読者のひろば」係 行

お名前/ふりがな

電話番号

ペンネーム ※未記入の場合、イニシャルで掲載します

年齢/性別

歳 男・女

ご住所 □□□-□□□□

プレゼント

クイズの答え

要・不要